● 最優秀賞

共に生きる心を育む総合学習
―福祉マップづくりを通して―

（代表執筆者）愛知県碧南市立中央中学校１年部会　岩井伸江（いわい のぶえ）

1　主題設定の理由

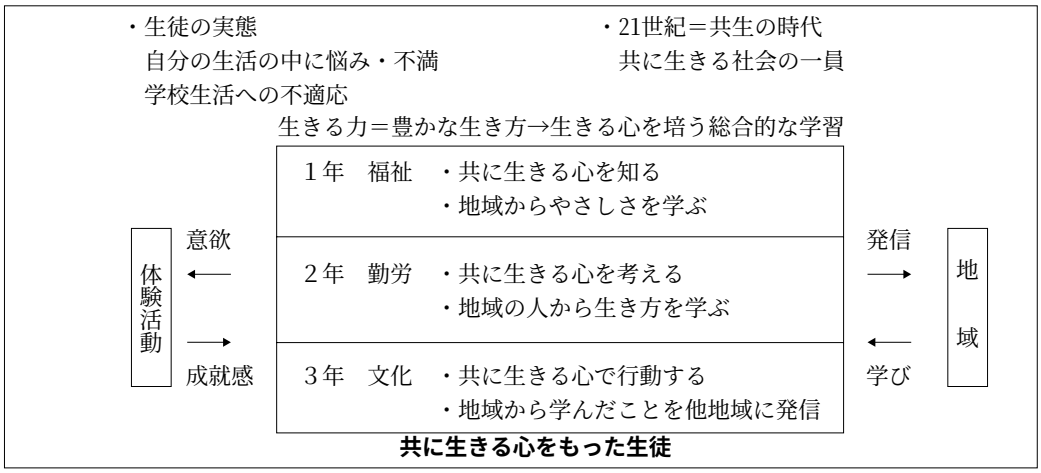
21世紀は共生の時代と言われる。共生とは与え合うことであり，愛し合うことであり，これからの世の在り方でもある。共に生きる心を育て，共に生きる社会の一員としての在り方を考えることは，21世紀を豊かに生きていくために必要な「生きる力」を培う源である。

４月に本校に入学したばかりの１年生は，これからの中学校生活への期待と希望に満ちあふれている。しかし，アンケートによる生徒の実態調査（**資料1**）では，「学校生活にまったく満足していない・あまり満足していない生徒」が13%，「病気以外のことで学校に行きたくないととても思う・たまに思う」生徒が51%を占めており，些細なことでトラブルを起こしたり，人との関わり合いがうまくもてなかったりするなど，自分の生活の中で悩みを抱える生徒も少なくない。

１　現在の学校生活	
とても満足している	20.0%
まあまあ満足している	67.0%
あまり満足していない	9.0%
まったく満足していない	4.0%
２　病気以外で登校したくないと思うこと	
まったくない	25.0%
あまりない	24.0%
たまにある	42.0%
とてもある	9.0%

●**資料1**／生徒の実態調査

こうした生徒たちが明るく楽しい生活を送るためには，カウンセリングだけでなく，社会的認識をもたせ，社会や人間とのつながりの中で自分自身の在り方を考えさせることが



●**資料2**／めざす生徒像

大切ではないだろうか。人や環境や地域などと共に生きる心を育てていくことが必要であると考えた。

そこで，共に生きる心をもった生徒の育成をめざし，中学校３年間という長いスパンの中でめざす生徒像を**資料2**のように位置づけた。その中で昨年度は１年生を対象に，福祉を通して「共に生きる心」の育成をめざしていきたいと考え，2002年の指導要領改訂を視野に入れ「総合的な学習」を系統立てて研究することにした（**資料3**）。本稿は，その中で，１学期に行った「福祉マップ」を核とした実践を中心に述べていく。

2 研究の仮説

①福祉について，体験活動を取り入れたり，道徳的価値の内面的自覚を図ったりすることにより，福祉についての関心を深め，共に生きる心を知ることができるであろう。

②身近な地域が，福祉にどのように関わっているかを調査活動をすることにより，福祉を身近なものとして実感し，共に生きる心を理解することができるであろう。

③調査したことをまとめ，それを地域に還元することにより，福祉についての認識を深め，共に生きる心を育てることができるであろう。

3 研究の内容

(1) 研究の具体的な方策

研究の仮説を実証するための具体的な方策を次のように考えた。

①障害者疑似体験活動の実践←仮説①

いきなり「障害者の立場になって…」と生徒に言っても，障害者の辛さや不便さを実際に理解することは難しいであろう。そこで，アイマスクをつけて歩行したり，車椅子に乗って街を歩いてみたりする，障害者疑似体験活動を取り入れることにより，障害者の方への理解を深めることができるのではないかと考えた。

また，道徳の時間のねらいと体験学習とのねらいには，生き方を考えさせていく上で共通点がある。道徳の時間では，道徳的価値の内面的自覚を図り，体験活動では，道徳的実践意欲と態度や判断力を高めることができる。そこで，福祉に関する道徳の授業によって相互の連携を深め，道徳的実践力を高めていきたいと考えた。

②中央学区についての調査←仮説②

中央学区の福祉施設や公共施設等を実際に調べることにより，私たちの住む街「中央学区」が福祉についてどのように取り組んでいるのかを知ることができると考えた。また，今まで気づかなかった福祉への取り組み等も知ることができ，福祉を身近なものとして感じることもできる。また，調査活動を通して，地域の方とのふれあいも生まれ，そこから様々な人の福祉への思いについてもふれることができるはずである。

③学区への福祉マップ配布←仮説③

せっかく中央学区について福祉調査活動を行っても，それが調査だけに終わってしまっては，調査への意欲や価値が半減してしまうであろう。そこで，実際に学区の人たちに配布することを目的とし，調査したことをもとに「福祉マップ」を作成する。また，「福祉マップ」を生徒の手によって学区内に配布し，生徒自身の活動への充足感につなげていきたい。

さらに，実際に障害をもった方に，福祉マップについてアドバイスを受け，実用的なマップとしたい。

(2) 成果の検証方法

①活動への参加の様子について，教師の観察と自己評価により，生徒の変容を調べる。

②活動を行うたびに感想を記し，その内容を分析する。ここでは，抽出児としてＡ子を

	学習事項	関連教科・領域
一学期「共に生きる心を知る」（9時間）	○福祉って何だろう 福祉について知っていることを書いたり発表し合ったりする中から，福祉についての既有知識や経験を掘り起こし，自分自身の福祉に関する知識を知る。 ○中央地区の福祉マップを作ろう 中央地区の福祉施設を調べ，私たちの街が福祉にどのように優しいのかを知る。 ○障害者疑似体験をしよう② 車椅子・アイマスクをつけて街に出よう。 ○福祉マップづくりの調査活動をしよう③ ○福祉マップづくり② 調べたことをまとめよう。 ○福祉を考える集会② 福祉マップの発表会をしよう。 障害者の方にアドバイスをいただこう。 ○福祉マップを配布して中央地区の方に活用してもらおう。	・学活・国語　福祉って何だろう① 福祉について知っていることを発表する。今，福祉について考えていることを作文に書く。 ・道徳　へその緒の話３―(2)① ・学活　みんなにとって優しい街とは① ・道徳　福祉について考えよう２―(2)① ・学活　福祉マップづくりの計画を立てよう① ・道徳　みんないい人・みんないいこと２―(2)① ・国語　お礼の手紙を書こう① ・国語　杉浦さんにお礼の手紙を書こう①
二学期「共に生きる心を考える」（6時間）	○新聞記事から福祉について考えよう 新聞から福祉に関する記事の切り抜き作品を作り，碧南だけでなく他の地域が福祉についてどのように取り組んでいるのかを知る。 ○福祉実践教室③ 障害を持った方の話を聞こう。 点字や手話に挑戦しよう。 ○安城養護学校との交流福祉実践活動③ 福祉施設を訪問し，障害者の方と一緒に活動しよう。 ○福祉実践活動や福祉実践教室を振り返って，思ったり考えたりしたことについてスピーチする。	・学活・国語　新聞切り抜き作品づくり③ ・道徳　勇気という言葉を知ったよ４―(4)① ・道徳　岩田さんの生き方から学ぼう１―(2)① ・学活　福祉実践活動の準備をしよう② ・国語　交流活動をした福祉施設に手紙を書こう① ・国語　思いを伝える―体験を振り返って―③ ・道徳　５人＋１人のランナー　２―(2)①
三学期「共に生きる心で行動する」（7時間）	○安城養護学校と交流活動をしよう② 安城養護学校のみんなに中央中学校に来てもらい，交流活動をしよう。 ○安城養護学校と交流活動をしよう福祉実践活動Ⅱ③ 安城養護学校や福祉施設を訪問し，障害者の方と一緒に活動しよう。 福祉の仕事をしている人にお話を聞こう。 ○福祉を考える集会Ⅱ② 碧南市の福祉について考えよう。 碧南市の福祉に携わっている人のお話を聞こう。 １年間の活動をまとめよう―碧南市民への提言	・学活　進路について調べよう―福祉の仕事―⑤ ・学活　福祉実践活動の準備をしよう① ・道徳　天使の心をもった少年　４―(9)① ・国語　お礼の手紙を書こう① ・国語　福祉提言を書こう① これからの碧南市の福祉を，福祉提言にまとめ，碧南市民としての生き方を考える。
	共に生きる心をもった生徒	

●資料3／総合単元「福祉について考えよう」指導計画

（○内の数字は時数）

取り上げ，変容を追う。

Ａ子　明るく素直な生徒である。小学校の時に，手話と車椅子，ユニセフ募金の福祉体験をしており，そのときの経験から「障害者の人は大変だ」という考えや，福祉とは「何かをしてあげる」という意識をもっている。

今回の活動を通し，「障害者の人は大変だ」「何かをしてあげなければ」という意識から，障害者の人も同じ人間として，生き方を認め，相手を思いやることの大切さに気づく中から，共に生きる心が育っていくことを期待したい。

③福祉に関するアンケートを行い，実施前と実施後についてアンケート結果を分析，比較し，生徒の変容を調べる（**資料1，資料7**）。

4　研究の実際と考察

(1) 指導計画

道徳・学級会活動・国語科・ゆとりの時間を統合した総合単元「福祉について考えよう」（**資料3**）を作成し，実践を進めた。

(2) 共に生きる心を知る活動

①福祉って何だろう

５月に１年生を対象に福祉アンケート（略）を実施し，生徒の実態を調べた。また，福祉について考えていることを書かせた。

私は今まで福祉についてやったことは，車椅子体験と手話とユニセフ募金です。車椅子と手話は，小学校の時にやりました。（略）初めて車椅子に乗った私は，「これ，おもしろーい。」と言って，友達とはしゃいでいました。でも，これでずっと過ごすなんて，すごく大変なことだなぁと思いました。（略）次は手話です。何をやったかはあまり覚えていないけれど手話を覚えるのは大変でした。（略）このとき体に障害をもっている人は，大変だということをつくづく感じました。ユニセフ募金は，ユニーでやりました。（略）募金をしてあげて，とてもいいことをした気分でした。これからもこういう機会があったら，やりたいです。Ａ子

Ａ子に代表されるように「障害者の人は大変だ」と考えており，福祉とは「何かをしてあげる」ことという意識をもっている生徒が多いことが分かった。今回の活動を通し，「障害者の人は大変だ」とか「何かをしてあげなければ」という意識から，障害者の人も同じ人間として，生き方を理解し，思いやることの大切さに気づき，共に生きる心が育っていってほしいと考えた。

②障害者疑似体験活動をしよう

福祉マップを作るにあたって，いきなりマップづくりに取り組むのではなく，生徒たちが主体的に取り組み，すすんで調べるように，きっかけを大切にしたいと考えた。そこで，ビデオ「みんなにとって優しい街とは」（ＮＨＫ・週間子どもニュースより）を視聴し，障害者の方が街を歩くときの問題点を知って，調査のきっかけとした。

ビデオを視聴することで，私たちの街に目の不自由な方や車椅子の方にとって不便なところが多いことを知ることができた。

次に，アイマスクを着けて歩いたり，車椅子に乗ったりする障害者疑似体験を行った。福祉マップづくりの視点を得ただけでなく，意欲づけにもなった（**写真1**）。

目が見えない人の体験（アイマスク）をやった。前は何もなく，真っ暗な世界にいるみたいだった。目が見えなくなると，自分一人では生きていけないという

●**写真1**／障害者疑似体験

ことをつくづく思った。あと，私たちは慣れた校内を歩いたので，だいたいの道はわかったけれど，実際は何も知らないところを歩くんだから，勇気がいると思った。

車椅子の体験では，思い通りに角を曲がることができず，まっすぐな道でさえも，グニャグニャ。タイヤを漕ぐのも力がいる。見た目にはおもしろそうな車椅子も，やってみると，すごく苦労した。この体験を明日の福祉マップづくりにいかしていきたい。　　A子

③道徳的心情の育成

福祉マップづくりに伴う体験活動で，道徳的実践意欲や判断力を高めるだけでなく，道徳的価値の内面的自覚を図りたいと考え，福祉に関する道徳の授業を並行して行った。

「福祉について考えよう２－(2)」（**資料3**）の授業では，障害のある子どもを母親が穴の中に隠していたというショッキングな話と佐桑豊さんの詩を通して，福祉についての考えを深めていった。

自分自身の生き方を振り返るとともに，改めて本当のやさしさとは？　福祉とは？　といったことについて思いを深めていくことができた。

障害者の人もみんな人間に変わりない……とか言っていたけれど，やっぱりみんな少しくらい，違う目で見ちゃっていたんではないかと思う。

私は外で，少し知的障害の人にしゃべりかけられたことがある。少し言葉がみんなと違っていて，私は何を言っているのか，わからなかった。それで，私は逃げてしまった。相手の人は私が逃げたことをどう思っただろうか。傷ついたかもしれない。

今日の授業は，何だか自分自身をとても責められた気がした。　　A子

(3) 共に生きる心を理解する活動

①福祉マップ作成に当たって

福祉マップ作成に当たっては，次の３点を考慮した。

○「＋」視点での調査

「～がなかった」「～がダメだった」といった見方ではなく，「＋」の視点で配慮されているところを探させる。

○学級を単位とした活動

入学してまだ間もないことを考慮し，学級づくりの場とし，この活動を学級を単位として行うことにより，学級の集団としての意識を高めたい。

○学年役員会による計画運営

各クラス級長２名，書記２名，計12名から構成される学年役員会を中心に活動を進める。これはリーダー育成をねらいとしている。

②街角調査

福祉マップの調査活動は，中央学区を３つのエリアに分けて，６月10日の８時30分から11時30分の，３時間にわたって行った。当日は天候にも恵まれ，生徒たちは意欲的に調査活動を行うことができた。道路については危険箇所や配慮すべき所の有無，施設や商店についてはどんな配慮をしているのかを聞いたり，調べたりした。

Ａ子は，保健センターと丹波屋，イワセ理容店に調査に行った。保健センターには，障害者専用駐車場，車椅子使用者トイレ，自動ドア，エレベーターなどの設備があり，それらを調査用紙にチェックしたり，写真を撮ったりしていった。

この他にも，いつでも使用できるように車椅子が置いてあること，盲導犬の受け入れ，貸し老眼鏡があること，筆談のＯＫなどの点についても，聞き取り調査を行う中で，調査していった。

また，イワセ理容店では，体の不自由な方には家まで行って散髪をしている，実際に今からその家に行くところであることを聞くことができた。

調査後の感想として，次のように記している。

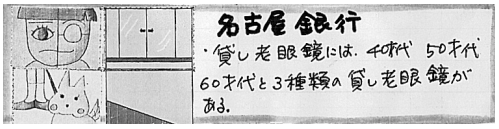
> 私は今日，福祉マップを作ってみて（というか，そのために見学に行ってみて），今まで知らなかった自分たちの街の福祉について，勉強したような気がした。
>
> 保健センターでは（略），いろいろな方にも，とても優しく説明していただき，障害をもった方たちも安心して利用できるなあと思った。またイワセ理容店では，体の不自由な方には家まで行って散髪をしてあげるそうだ。私たちが行ったときも，実際に今から障害者の方の家に行くところだった。調査をして，どの店もお年寄りや障害者の人のためにいろいろ考えていることがわかった。
>
> 私は今まで，福祉っていうのは，例えば地震の被災地にお金を送ったり，老人ホームや障害者の施設とかで働いたり……といったようなもっと大きなことだと思っていた。でも，今日の調査をとおして，「ああ，こういうのも福祉っていうんだ」と思った。福祉って，みんなの思いやりなんだ。　　Ａ子

調査を通して，どの店もお年寄りや障害者の人のためにいろいろ考えていることがわかり，障害者も健常者も共に生きるために努力していることを実感することができた。

郵便局について調査したグループは，入り口横にスロープ，点字がついている公衆電話やはがきの自動販売機，障害者専用駐車場などを，職員の方の説明を受けながら見ていった。

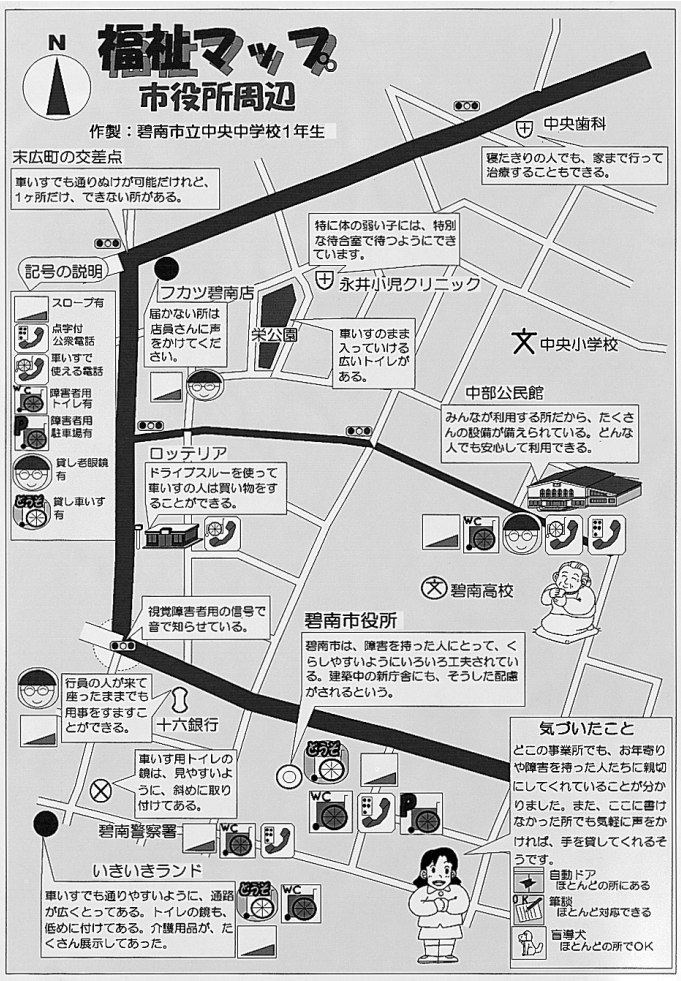
また，今作っているポストは，車椅子の人のために低く作ってあることや，郵便局の周りには目の不自由な方のための誘導ブロックがあることも調査した。

郵便局の中には，お年寄りのための老眼鏡や車椅子の人のための机や，点字のついたキャッシュカードなどがあるだけでなく，インターネットに碧南電子郵便局というホームページがあり，ボランティアの情報などを流している。また，ボランティア団体の連絡先ものっていて，印刷もできるなどの最新の設備を知り，生徒たちは一様に感嘆していた。



●資料4／福祉マップ記号

しかし，Ｂ男の感想にあるように，調査を進めていく中で，問題点も指摘していた。



●**写真2**／福祉マップ

（略）郵便局を調べていて，残念に思ったことがあった。それは，せっかく障害者専用の駐車場があっても，そこに工事の人の車が停まっていたことだ。また，スロープにも自転車が停まっていた。せっかくの施設があっても，これでは使えないなと残念に思った。　　B男

調査した内容については，**資料4**のような役員会で考えた記号をシール化し，その横に気づいた点を書き込み，それをB紙大の各クラスの地図に貼っていった。

シールを切る作業を行う者，気づいた点についてまとめる者，調査した店等に礼状を書く者など，班の中で協力し合って，楽しそうに作業に取り組んでいた。班ごとに地図に調べたことを貼り，完成させたのが**写真2**のようなマップである。

(4) 共に生きる心を育てる活動

①福祉を考える集会

福祉マップに対するアドバイスを受けるために，視覚障害をもった杉浦敏子さんを招き，福祉マップの発表会として福祉を考える集会を行った。

集会では，マップづくりの活動を振り返った後，実際に作ったマップや写真をスクリーンに映しながら，各クラス２班ずつ，計６グ

ループが，調査活動を通して気づいた点やわかったことなどを発表した。

老人健康センター「向陽」を調べてきたグループは，施設の充実さに感嘆の意を表し，碧南市が障害者にとって街づくりをしていることに気づいたことを発表した。

また，中部公民館を調査したグループは，

> （略）次に，公民館の館長さんと職員の方にお話を聞いてみました。中部公民館では，障害者の方がみえても，特に要望があるまでは，こちらから積極的に声をかけることは遠慮するようにしているとのことでした。障害をもった人たちも自分でできることは，自分でしようという思いがあるからだそうです。必要以上の手出しは，かえって迷惑になることがあるのだそうです。ちょっと考えさせられました。

と発表した。障害者の方に接するときの心構えについて考えさせられた。

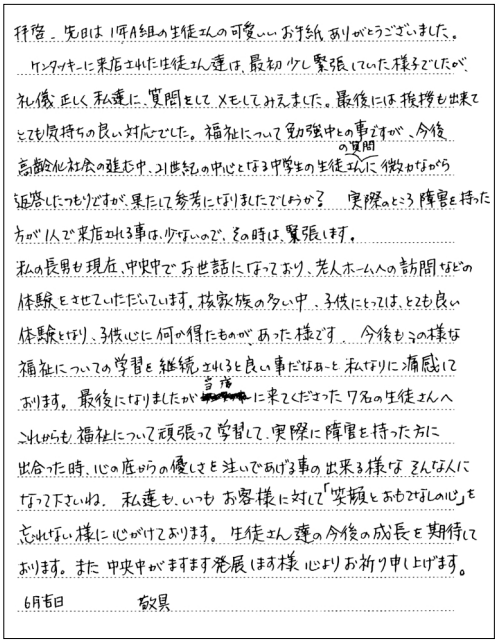
ヤマナカについて発表したグループも，

> ヤマナカは，入り口にスロープがあり，車椅子の人も入りやすくなっていました。危険な場所は少なかったけれど，トイレに段差があったり，エスカレーターしかないので，車椅子の人は２階には行けなかったりという，不便な点もありました。
>
> 今回の調査活動をしてみて，普段買い物に行った時には気づかなかったけれど，障害をもった方には，まだまだ不便な点がたくさんあることがわかりました。

と発表し，普段買い物をしているときには，気づかなかった問題点に気づくことができた。

集会では，生徒の書いたお礼の手紙に対していただいた返事（**資料5**）の中から一つを紹介した。生徒たちは「先生，○○からは返事が来た？」と毎日のように聞くなど，各商店や施設からいただく返事を，とても心待ちにしていた。自分たちの活動が実際に認められたこと，また，マップを心待ちにしているとの手紙の言葉に，活動への充足感を得ることができた。

視覚障害者の杉浦敏子さんからは，福祉マップづくりの活動はとてもすばらしいと評価していただいただけでなく，生い立ちや日常生活の様子などについても話をしていただいた。普段，障害をもった方に接する機会があまりない生徒は，全盲でありながらも家事をこなし，子育てもすべて行ってきたこと，にこやかに語る杉浦さんの話を驚きと感嘆をもって聞いていた。障害をもった方と接する機会となっただけでなく，明るく前向きに生きる生き方からも，多くのものを学ぶことができた。



拝啓　先日は1年A組の生徒さんの可愛しいお手紙ありがとうございました。
ケンタッキーに来店された生徒さん達は，最初少し緊張していた様子でしたが，礼儀正しく私達に質問をしてメモもしてみえました。最後には挨拶も出来てとても気持ちの良い対応でした。福祉について勉強中との事ですが，今後高齢化社会の進む中，21世紀の中心となる中学生の生徒さんに微力ながら質問の返答したつもりですが，果たして参考になりましたでしょうか？　実際のところ障害を持った方が1人で来店される事は，少ないので，その時は緊張します。
私の長男も現在，中央中でお世話になっており，老人ホームへの訪問などの体験をさせていただいています。核家族の多い中，子供にとっては，とても良い体験となり，子供心に何か得たものがあった様です。今後もこの様な福祉についての学習を継続されると良い事だなあーと私なりに痛感しております。最後になりましたが音楽に来てくださった7名の生徒さんへ
これからも福祉について頑張って学習して，実際に障害を持った方に出合った時，心の底からの優しさと注いであげる事の出来る様なそんな人になって下さいね。私達も，いつもお客様に対して「笑顔とおもてなしの心」を忘れない様に心がけております。生徒さん達の今後の成長を期待しております。また中央中がますます発展します様，心よりお祈り申し上げます。
6月16日　敬具

●資料5／お礼の手紙の返事から

> 先日の杉浦さんのお話を聞いていて，話しているとき，杉浦さんはずっと笑顔で私たちに話しかけてくれました。目が

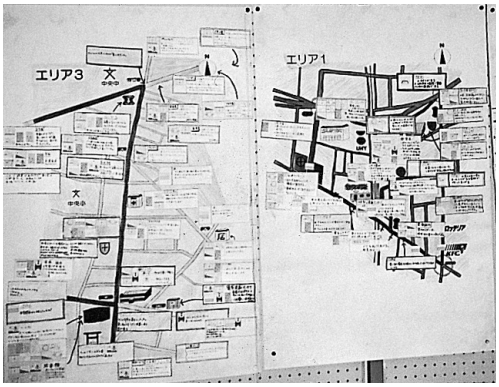
●**写真3**／福祉マップを地域の方に配布する

見えないのに，なぜあんなに穏やかな表情をして話すことができるのだろう。私にはそれがすごく不思議でなりませんでした。でも，こうやって言うのはものすごく失礼かもしれませんが，私たちみたいな何の不自由もない健康な体をもった人間の方が，本当は弱いのかもしれない，強く生きるということを知らないのだと思います。体に障害をもった人の方が強い心をもって生きることを知っているのだと思います。私たちが見習わなくてはならないのは，まさに杉浦さんのあの笑顔です。何も見えない真っ暗な世界にいても，たくさんの人を笑顔で照らしてくれていると思いました。　　Ａ子

②福祉マップの配布

生徒たちが完成させたマップは，どうしたら実際に配布できるかという点について検討した。その結果予算面等の問題もあり，コンピュータ処理を行い，Ａ４版のマップ３枚（**資料6**）にまとめることにした。

これを生徒の手によって調査した施設等に配布した。郵便局・保健センター・市役所・中部公民館・老人健康センター向陽文化会館・銀行については，訪れた人たちにも見ていただくようにマップの設置をお願いした。どの施設も快く許可してくださった。市役所では，市の諸施設にも設置することを申し出ていただくことができた。マップ配布により，



●**資料6**／施設に設置された福祉マップ（一部）

自分たちの活動が地域の人たちに認められたことを，確かに実感することができた（**写真3**）。

（略）真剣に私たちの調査に応じてくれた，保健センターのみなさんの努力がむだにならないようにマップを作りました。そして，私たちでも驚くようなマップができて，今まで苦労して作った分，とてもうれしかったです。その完成したマップを，保健センターに持っていき，渡したとき，これをみんなに利用してもらえるんだなと，つくづく感じました。作ってよかったなと思いました。どんどんいろんな人に使ってもらいたいです。Ａ子

5　研究の成果と今後の課題

仮説①　福祉について，体験活動を取り入れたり，道徳的価値の内面的自覚を図ったりすることにより，福祉についての関心を深め，共に生きる心を知ることができるであろう。

いきなり福祉マップづくりに取り組むのではなく，福祉疑似体験活動などの体験活動を取り入れたことにより，マップづくりへの意

欲化につなげることができた。生徒たちの感想の中にも，「福祉マップづくりに役立てたい」といった言葉がたくさん見られた。また，車椅子での体験は，福祉マップでの調査活動において，障害をもった人の立場にたって調査する上で大変参考になった。さらに，アイマスクをつけて視覚障害者の疑似体験を行ったことは，「福祉を考える集会」における視覚障害をもった杉浦さんとの出会いに，大変プラスになった。実際に目の見えない状態を体験しているだけに，障害をもちながらも前向きに何でもこなす杉浦さんの生き方に共感，感動することができ，共に生きる心を知ることにつながっていった。

また，道徳の授業実践により，自分自身の福祉に対する考えを振り返り，福祉に対する思いを深めていくことができた。

仮説②　身近な地域が，福祉にどのように関わっているかを，調査活動をすることにより，福祉を身近なものとして実感し，共に生きる心を理解することができるであろう。

身近な地域を調査場所に選んだことにより地域に根ざした福祉について考えを深めていくことができた。また，福祉について身近なものとして，実感を深めていくことができた。普段，何気なく見過ごしていた場所にも，障害者や老人などに対する配慮があることを知ったり，地域の方の福祉への思いを聞いたことは，生徒の心に深く印象づけられた。特に，調査した店や施設にお礼の手紙を渡し，返事をたくさんいただいたことは，地域を足がかりとした活動となり，共に生きる心とは何かということについて理解を深めていくことができた。

仮説③　調査したことをまとめ，それを地域に還元することにより，福祉についての認識を深め，共に生きる心を育てることができるであろう。

地域の人たちに活用してもらえる福祉マップを作ろうと，目的をはっきりさせたことで，目的意識をもって意欲的に活動に取り組むことができた。活動後のアンケート（**資料7**）でも意欲的に取り組むことができたと多くの生徒が答えている。

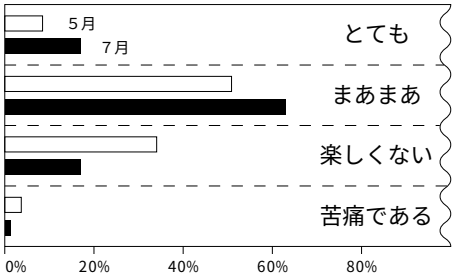
「あっ，これ，うちらが作ったマップじゃん。」図書館に行ったとき，私たちの作った福祉マップが貼ってありました。（略）また，この前お母さんが銀行に行ったときも，福祉マップが貼ってあったそうです。（略）作るのは大変だったけれど，苦労が報われたような気がして，すごくうれしかったです。　　Ｃ子

自分たちの作った福祉マップが地域で活用されているのを見たり，聞いたりすることで，活動への充足感を得ることができた。また，それだけでなく，新聞に自分たちの活動が報道され，社会や地域から認められ，確かな自信につなげていくことができた。

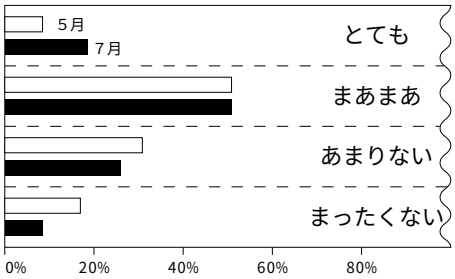
この福祉マップの活動を基盤に，２学期・３学期には安城養護学校をはじめとする市内の福祉施設でお年寄りや障害者とのふれあい活動を２回にわたって実施した。そして，それらの活動を通して考えたり，感じたことを「碧南市への福祉提言」として，市の福祉課に届けた。

これらの活動は，些細なものであり，今，まさに始まったばかりのものである。しかし共に生きる心をもった生徒が育ちつつあることへの確かな手応えを実感できる。また，活動を通し，福祉の面だけでなく自分自身も共に生きる社会の一員であることを実感させることができた。その実感こそが，生きる力であり，充実した学校生活や豊かな生き方を育

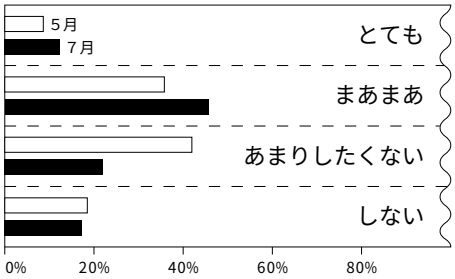
問　あなたは福祉に関わる活動を楽しいと思いますか。



問　あなたは福祉に関わる活動に興味がありますか。



問　あなたは今後，機会があれば福祉に関わる活動に参加したいですか。



問　あなたは福祉マップづくりの活動に意欲的に取り組むことができましたか。

とてもよくできた	34.8%
まあまあできた	50.7%
あまりできなかった	10.9%
まったくできなかった	3.6%

●**資料7**／生徒の実態調査（福祉アンケート）

む源となっていくと確信している。

今年度は「勤労」をテーマに，職場体験活動などを通して，地域の人たちから生き方を学び，地域の人と共に生きる心を考えさせていきたいと考えている。また，１年生ということもあり，今回の総合的な学習は，教師主導型の取り組みが中心であった。今年度は，自分で調べたり，学習したりする個人を追究する場を指導計画の中に盛り込み，さらなる主体的な学びの場としたい。